

S/F REAL 4

Q&A

【その他】

あい ホールディングスグループ 

株式会社 ドットウェル ビー・エム・エス

DATA LOGIC

REAL4を最新版にアップデートしたい！

SF システムメニューからできます。

SF システムメニューの【ヘルプ】 - 【REAL4 のダウンロード】をクリックします。

ダウンロードページを表示するので、【ログイン】をクリック、**パスワード**を入力し【確定】をクリックします。

パスワードは納品時の「**パスワード一覧**」またはバージョンアップのお知らせメールをご確認ください。



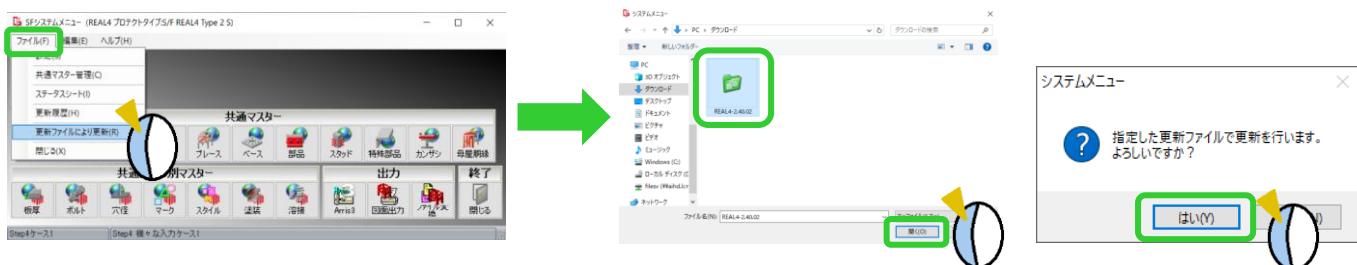
ログイン後、ダウンロードページから最新版をダウンロードしてください。



ダウンロード終了後、SF システムメニューの【ファイル】 - 【更新ファイルにより更新】をクリックします。

ダウンロードした更新ファイルを選択して【開く】をクリックすると、更新の確認メッセージを表示します。

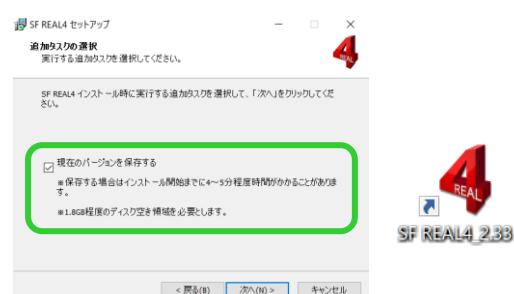
【はい】をクリックして更新を開始します。



更新が完了すると、自動的に SF システムメニューが再度起動します。

4 現在使用しているバージョンを残して最新版にアップデートしたい場合は、更新時の【追加タスクの選択】で【現在のバージョンを保存する】にチェックを付けて【次へ】をクリックし、更新を進めます。

チェックを付けて更新すると、デスクトップ上に
使用していたバージョンのショートカットが作成されます。
古いバージョンで操作したい場合はここをダブルクリックし、
起動します。



REAL4のバージョンアップ内容が知りたい！

SFシステムメニューから確認できます。

SFシステムメニューの【ファイル】 - 【更新履歴】をクリックします。



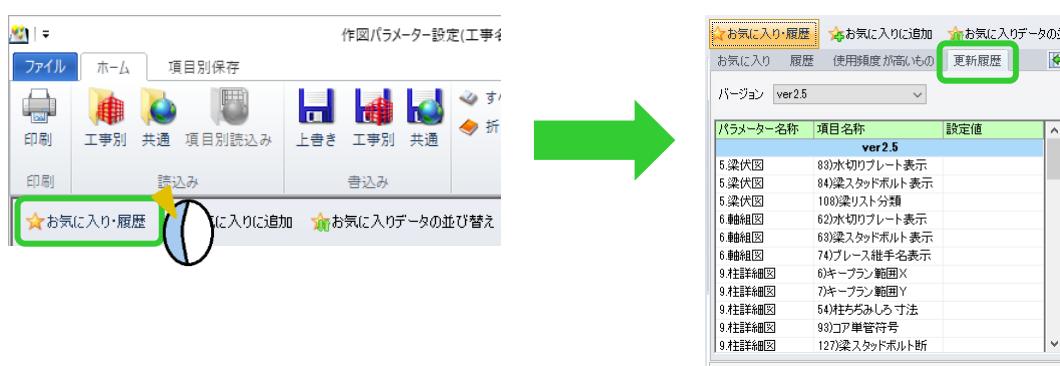
更新履歴を表示します。

画面左側のバージョンをクリックすると、該当バージョンに関する追加内容・不具合修正内容等を確認できます。



バージョンアップにより追加になったパラメーターは、

【ファイル】 - 【パラメーター】 - 【お気に入り・履歴】 - 【更新履歴】で確認できます。



更新履歴右側の をクリックすると、お気に入り・履歴を固定し常に表示します。



①REAL4をインストールする際にUSBキーを挿したままインストールしてしまった！

起動時のエラーを解決します。

REAL4 を新規でインストールする際に、USB のプロテクトキーを挿したままインストールすると、起動時にエラーが起き、REAL4 が起動しません。その場合は次の方法で解決できます。



データロジック HP(<http://www.datalogic.co.jp/>)のTOP ページ下側にある 【プロテクトドライバー】ボタンをクリックすると、最新ドライバーのインストールリンク画面が開きます。

USB キーを抜いた状態のまま 【SFProtect.EXE】 の こちらボタンをクリックします。



インストール画面が起動します。

次へ をクリックしプロテクトドライバーのインストールを行います。

インストールの途中で表示されるプロテクトをクリックしドライバーをインストールします。

インストールがすべて終了したら PC を再起動し、再起動後に USB キーを挿して REAL4 を起動してください。



②REAL4をインストールする際にUSBキーを挿したままインストールしてしまった！ 起動時のエラーを解決します。

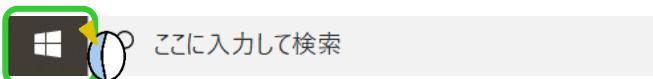


新 PC に REAL4 をインストールする際は、PC で使用しているセキュリティソフト(ディフェンダー等)で【SFSysTem】、【SFData4】の除外設定を必ず行ってください。



新しい PC へ REAL4 をインストール時には必ず次の設定も行ってください。

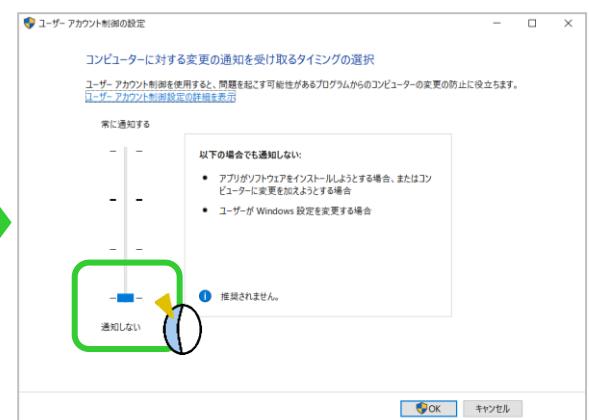
画面左下のスタートボタンをクリックします。



【Windows システムツール】のフォルダを開き、【コントロールパネル】 - 【ユーザーアカウント】 - 【ユーザーアカウント制御設定の変更】をクリックします。

コンピュータに対する変更の通知を受け取るタイミングの選択を【通知しない】に変更してください。

*コントロールパネルの【表示方法】が【カテゴリ】になっている場合は、【大きいアイコン】もしくは【小さいアイコン】に変更してください。



? プロテクトエラーになってしまう！(データ実行防止) データ実行防止を確認してみましょう。

例) Windows7の場合

【コントロールパネル】を開き、表示方法を【小さいアイコン】にします。

【システム】 - 【システムの詳細設定】を開きます。【パフォーマンス】の設定をクリックします。

【データ実行防止】で『重要なWindowsの～』にチェックを入れてください。

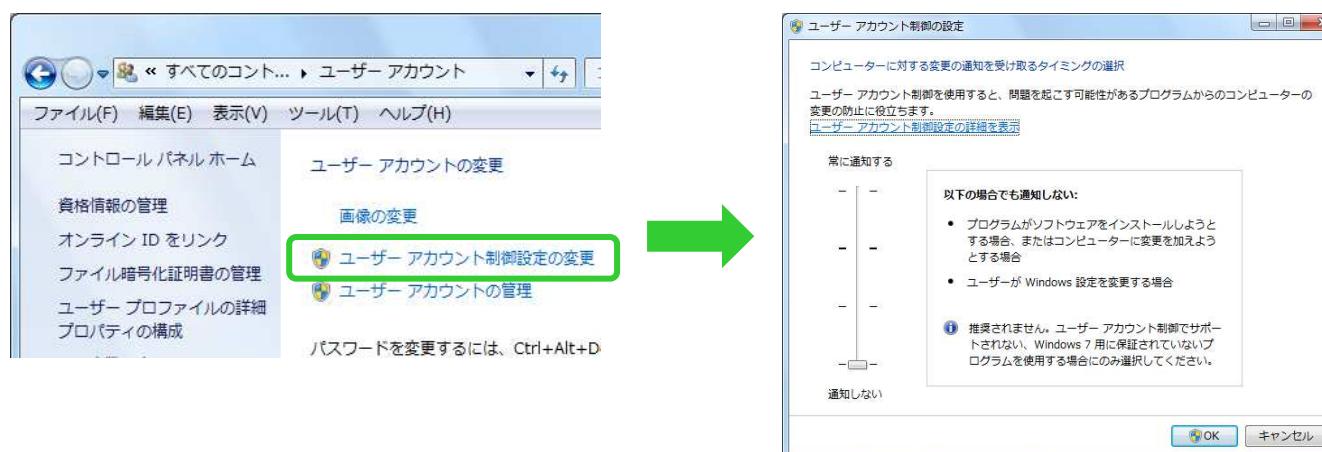


上記設定を変更しても解消されない場合は、
(株)データロジック インフォメーションセンター
にお問い合わせください。

? REAL4を起動するたびに「ユーザーアカウント制御」が出る！ 通知のタイミングを変更してみましょう。

【コントロールパネル】 - 【ユーザーアカウント】を開きます。

【ユーザーアカウント制御設定の変更】を開き、通知を受け取るタイミングを一番下の【通知しない】に設定してください。



モニターを2画面から1画面にしたら画面が出てこない！

スペース+Alt+Mで画面移動ができます。

パソコンのモニターを2画面から1画面に減らした際、部材マスターなどの画面がモニターに表示されないことがあります。

例) 部材マスターをクリックしたが画面に表示されない場合

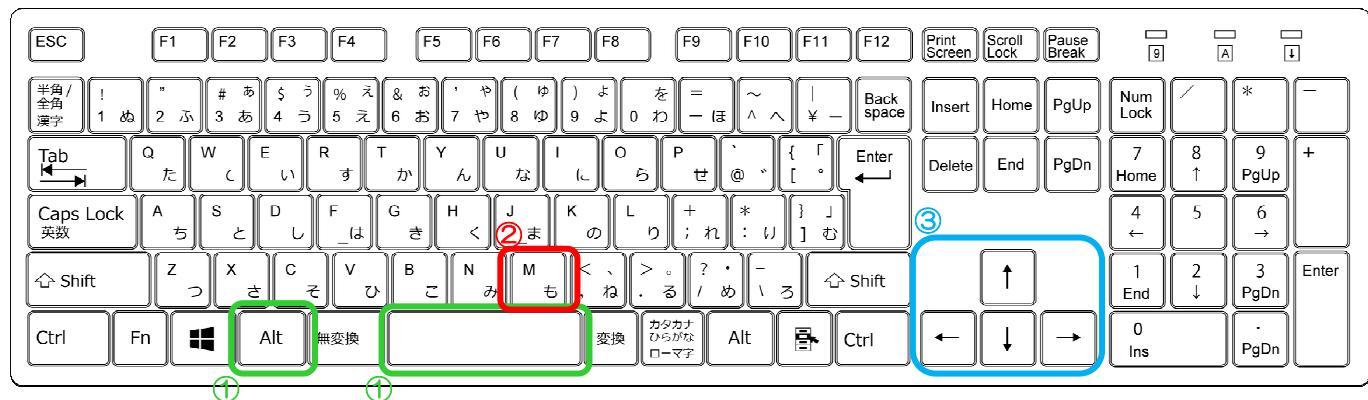
画面下 タスクバーで部材マスターのアイコンをクリックします。



クリックしても画面が表示されない場合、モニターの外側に部材マスターが表示され、隠れている状態です。その場合は、Windowsのショートカットを利用して画面移動を行います。

①キーボードの【スペースキー】と【Altキー】を同時に押します。

②キーボードの【M】を押します。



③キーボードの【矢印キー】のどれか一つを一度押してからマウスを動かすと、マウスカーソルに隠れていたマスター画面が付いてきますので、画面位置を決めてクリックします。



Windows10の場合、

タスクバーのアイコンにカーソルを合わせると

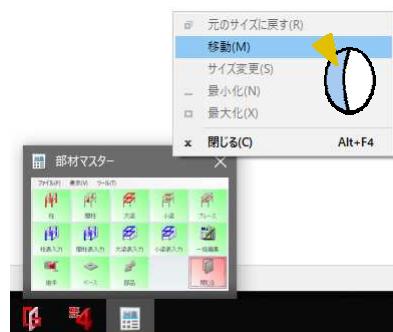
画面のプレビューを表示するので、

プレビュー上で右クリックして【移動】をクリック、

キーボードの矢印キーをどれか一つ一度押すと

同様にマウスカーソルに画面が付いてくるので、

モニター上に画面移動することができます。



計測結果の画面が表示されない場合はファイルの削除が必要です。

C:\ProgramData\Logic\SF REAL4\Skc001\dlgLCmdMeasure.config を削除し
もう一度計測をしてください。

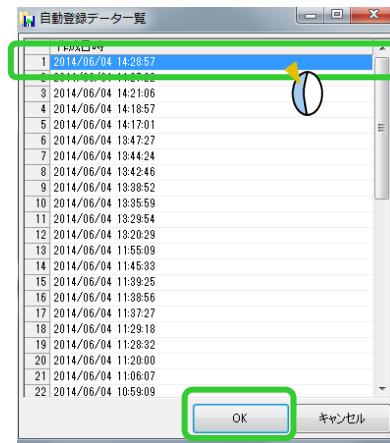
↖? 入力中パソコンが強制終了してしまった！

自動登録読み込みでデータの復旧が可能です。

【工事】 - 【自動登録読み込み】をクリックします。



自動登録が作成された日時を一覧で確認し、呼び出したい日時を選択後、OKボタンをクリックします。



 自動登録のタイミングは【ファイル】 - 【REAL4のオプション】 - 【基本設定】で変更が可能です。
初期設定では自動登録ステップ数は5、履歴数は50に設定されています。

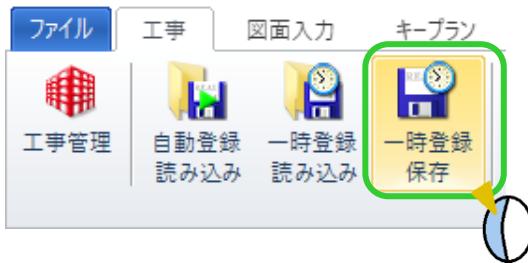


 自動登録データを呼び出しただけでは、保存はかかりません。
必ず呼び出したデータの確認を行い、保存を行ってください。

? 一時登録保存と読み込みについて知りたい！

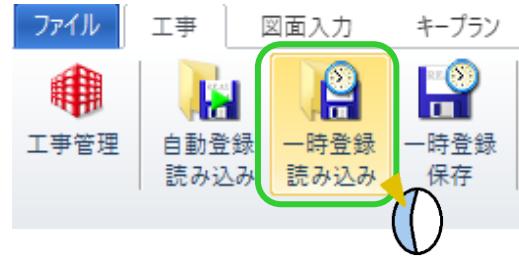
どのタイミングで保存したかを確認して読み込みが出来ます。

【工事】 - 【一時登録保存】をクリックします。

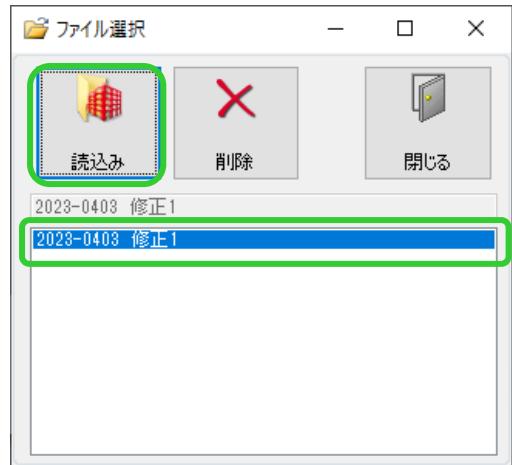
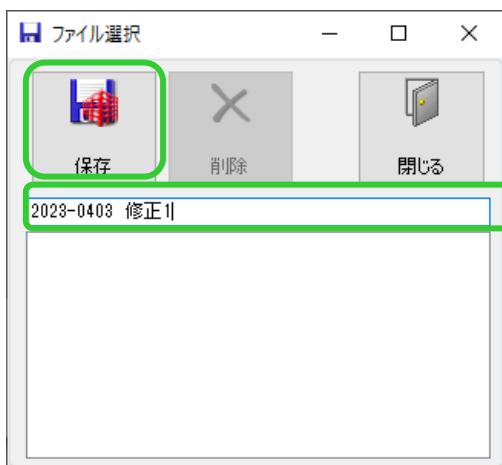


保存したタイミングがわかるように
名前を付けて、「保存」をクリックします。

【工事】 - 【一時登録読み込み】をクリックします。

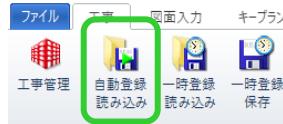


読み込みたい名前を選択して、「読み込み」
をクリックします。



自動登録読み込みは【ファイル】 - 【REAL4 のオプション】
にある自動登録ステップ数で保存された保存日時で登録さ
れます。

例) 自動登録ステップ数 : 5
コマンドを 5 回実行すると
自動保存がかかります。



作成日時	サイズ
2023/04/03 17:26:26	17 KB
2023/03/23 19:08:21	17 KB
3 2023/03/22 17:17:20	17 KB
4 2023/03/22 17:10:37	17 KB
5 2023/03/22 16:59:43	17 KB
6 2023/03/22 16:55:25	17 KB
7 2023/03/22 16:53:34	17 KB
8 2023/03/22 16:52:22	17 KB
9 2023/03/22 16:50:12	17 KB
10 2023/03/22 16:47:16	17 KB
11 2023/03/22 16:45:58	17 KB
12 2023/03/22 16:41:46	16 KB
13 2023/03/22 16:36:45	16 KB
14 2023/03/22 16:34:40	16 KB
15 2023/03/22 16:30:00	16 KB



一時登録では、マスターファイルは保
存されません。
マスターファイルは ボタンをク
リックした時点で保存されます。

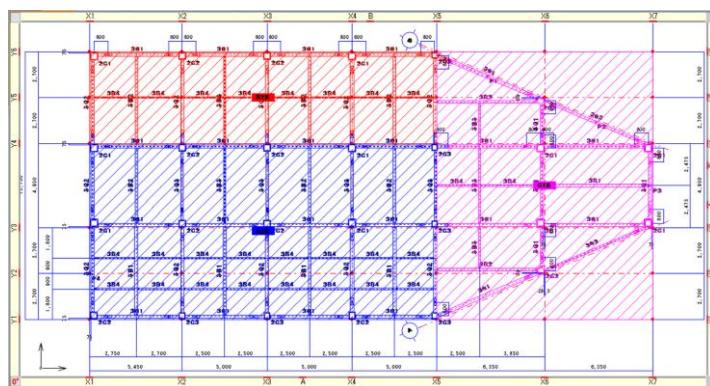


? 入力した工事データが重くてREAL4の動作が遅い！①

分割で工事データを複数のデータに分割できます。

動作が重くなる大きな物件の場合、【工事】 - 【分割】で階や節・工区ごとなどに工事データを分割し、分割した各工事データでプレースや胴縁、母屋、二次部材などを入力することでき、作業時間を短縮できます。分割した工事データはそれぞれで入力でき、後から1つの工事データに合算することができます。

例) 工事番号：BMSビル、工事名称：(仮称) BMSビル 新築工事 を工区別にデータを分割し、それぞれの工区でデータの入力をしたい場合



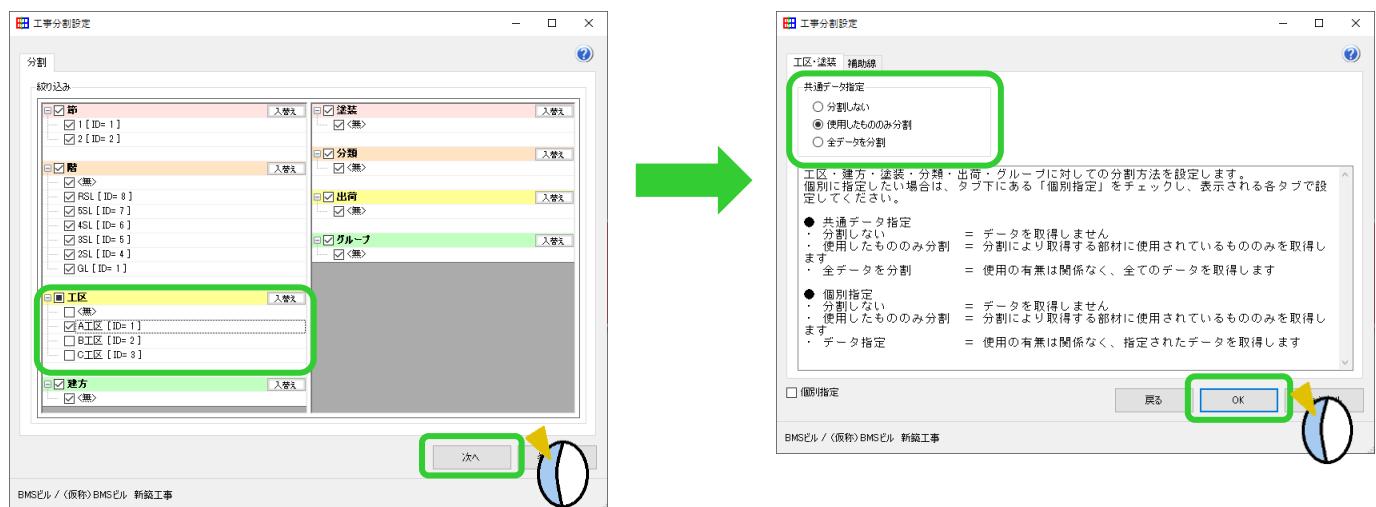
【工事】 - 【分割】クリックします。



工事分割設定画面が起動するので、分割したい条件を絞り込みます。

今回は工区ごとに分割するため、まずA工区に☑をして次へをクリックします。

次の画面で、分割元の工事データの工区・塗装タブの設定を分割先の工事データに連動するかどうかを選択し、OKをクリックします。



⚠️ 入力した工事データが重くてREAL4の動作が遅い！②

分割で工事データを複数のデータに分割できます。

工事データ分割画面で、分割した工事データの工事番号や工事名称を入力し、**OK**をクリックします。

例) A 工区のみに分割した工事データなので、

工事番号：BMS ビル-A、工事名称：(仮称) BMS ビル 新築工事-A と入力



【分割の制限】

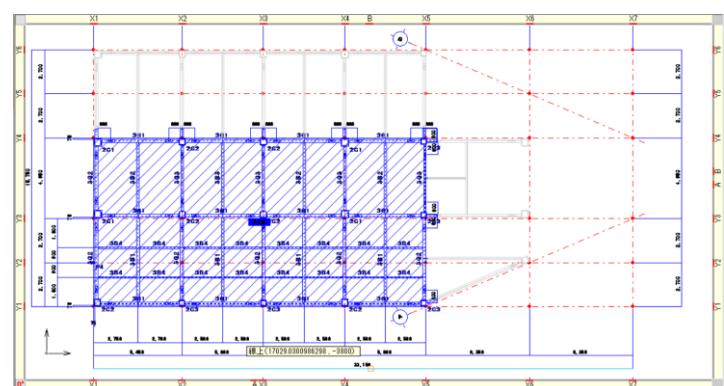
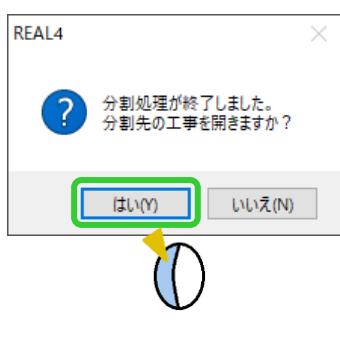
- ・工事別部材マスター やキープランは分割元の情報をそのまま利用します。
 - ・分割されたデータの接続先になっている部材、分割されたデータの基準になっている部材、勾配の基準通り上にある部材は**データ保持用部材**として作成され、グレーで表示されます。作図・帳票には表示されません。
- ※詳しい制限については **【ファイル】 - 【マニュアル】 - 【機能マニュアル】** の § 工事 - 9. 分割 をご参照ください。

データの分割が終了すると確認メッセージを表示します。

引き続き他の条件でデータを分割したい場合は**いいえ**、分割したデータを確認したい場合は**はい**をクリックします。

例) **はい**をクリックした場合

[BMS ビル-A] (仮称) BMS ビル 新築工事-A



分割した工事データに入力後、再び一つ工事データに合算する場合は入力したデータに合わせて

【工事】 - 【本体合算】 や **【母屋合算】**、**【胴縁合算】**、**【二次部材合算】** 行います。



工事を選択してからREAL4を起動したい！ システムメニューに「工事管理」を追加できます。

項目を追加してみましょう。



【SF システムメニュー】 - 【編集】 - 【項目追加】 をクリックします。



ボタンを追加したい「グループ」を選択し、**追加**をクリックします。

ボタン名を入力し、システムパスの をクリックします。

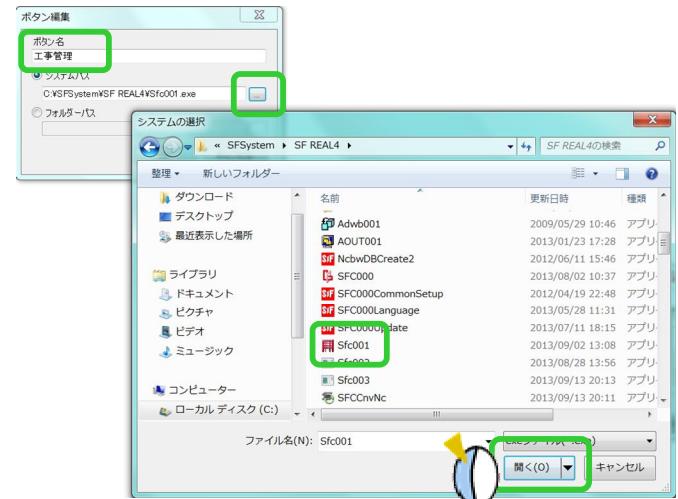
ファイルを選択し、**OK**します。

例) ボタン名：工事管理

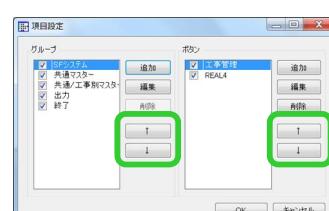
システムパス : C:\\$FSSystem\\$F REAL4 の中の

Sfc001.exe を選択し、

開くをクリックします。



各グループやボタンの並び順は、変更したい名前を選択し、矢印ボタン で入れ替えが可能です。



工事管理以外にもアプリケーションファイルを指定する事でボタンの追加が可能です。

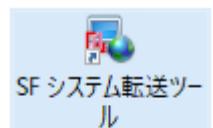


ファイルの場所が分からない場合は、各アプリケーションのアイコン上で右クリックし【プロパティ】 - 【ショートカット】タブ「リンク先」で確認できます。



別のPCにREAL4の設定をコピーしたい！

SFシステム転送ツールを使用します。

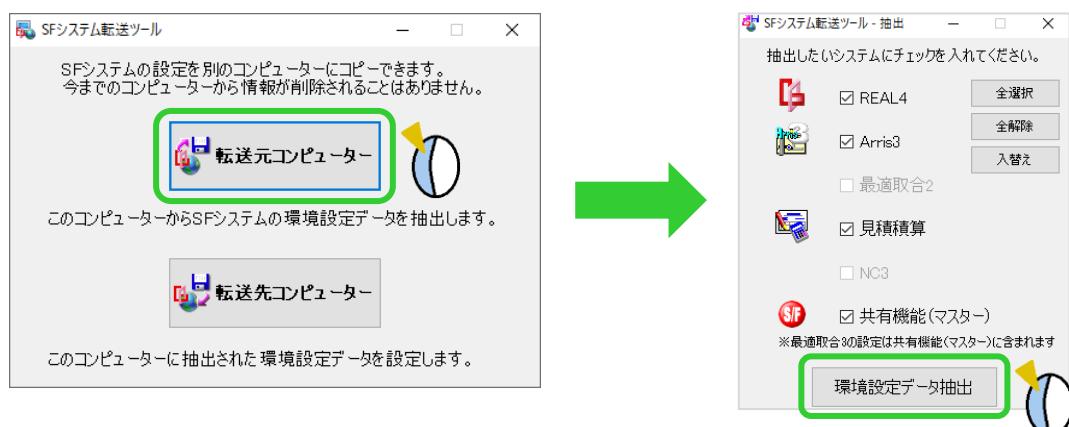


REAL4 インストール DVD から、コピー元の PC とコピー先の PC 両方に SF システム転送ツールをインストールします。

<コピー元パソコンで操作>

デスクトップの SF システム転送ツールのアイコンをダブルクリックして起動し、【転送元コンピューター】をクリックします。

設定をコピーしたいシステムにチェックを付け、【環境設定データ抽出】をクリックします。



設定ファイルの保存先を指定し、保存が完了したら設定ファイルをUSB等に保存してコピー先パソコンに移動します。



SF Transfer で転送できる主なデータ

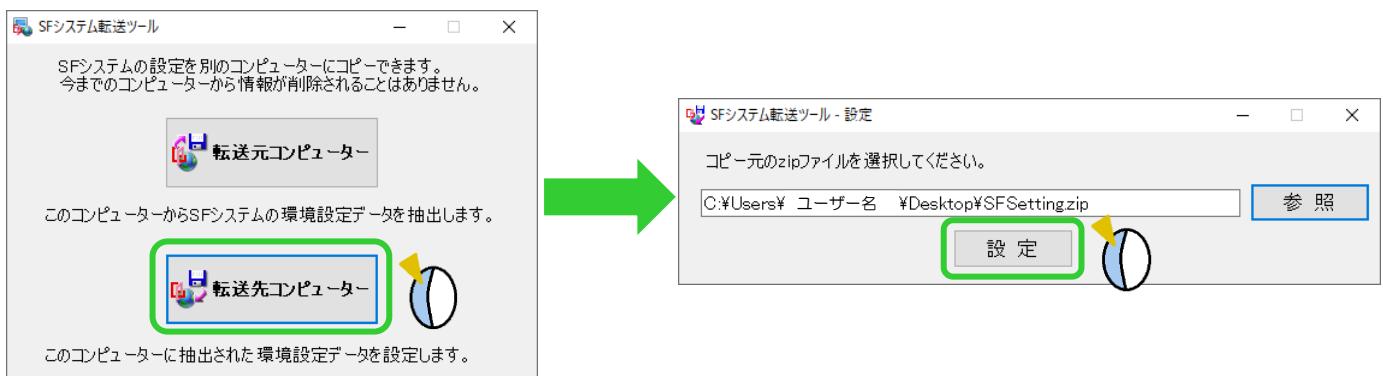
記事項や加工図・検査表ファイル、共通パラメーター、配置画面設定

など

<コピー先パソコンで操作>

デスクトップの SF システム転送ツールのアイコンをダブルクリックして起動し、【転送先コンピューター】をクリックします。

参照をクリックしてコピー元パソコンで作成した設定ファイルを選択し、設定をクリックして読み込みます。



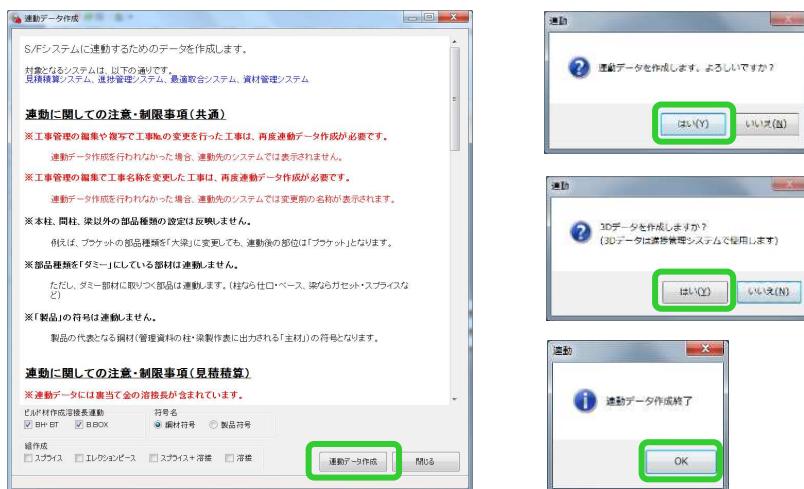


REAL4 のデータを見積積算システムへ連動したい！ 連動データ作成することで連動が可能となります。

【出力】 - 【連動】をクリックします。



連動に関する注意事項が表示されますので、内容をご確認いただき、【連動データ作成】をクリックします。



左図のように、確認のウィンドが
表示されたら、【はい】をクリックします。

3D データは進捗管理システム用ですので、
【いいえ】をクリックします。

連動データ作成が終了したら
【OK】をクリックします。

REAL4 での作業は以上です。



見積積算システムの拾い出しリストに製品符号を連動したい場合は、REAL4 にて「符号管理」、塗装(錆止め
/メッキ)情報を連動させたい場合は「工区：塗装」にて塗装設定まで行ってから連動データ作成してください

見積積算システムを起動し、通常通り **【工事選択】** より連動する工事を選択し、**【工事別マスタ】** より本
体区分等の登録を行い **【積算連動】** をクリックします。



連動元のデータを選択し、**【読み込み開始】** をクリックします。



① 連動元データ : **【REAL4 工事】** を選択します。

② **【選択】** より連動元の REAL4 工事を選択します。

※一覧には、REAL4 にて「連動データ作成」を行っている
工事のみ表示されます。

③ 各区分に連動するデータを選択します。

④ **【読み込み開始】** をクリックします。

拾い出し入力に REAL4 で入力されたデータが連動されています。



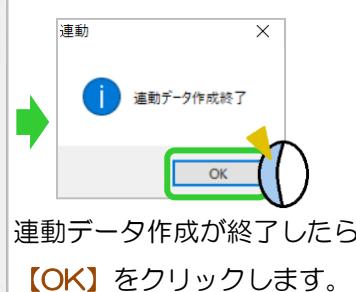
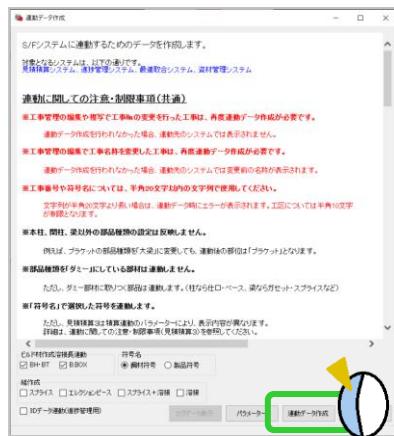
【パラメータ】 より、符号や用途に連動するデータの選択が可能です。

①REAL4のデータを見積積算4へ連動したい！(データ連動)

REAL4 側で連動データの作成が必要になります。

REAL4で【出力】 - 【連動】をクリックします。

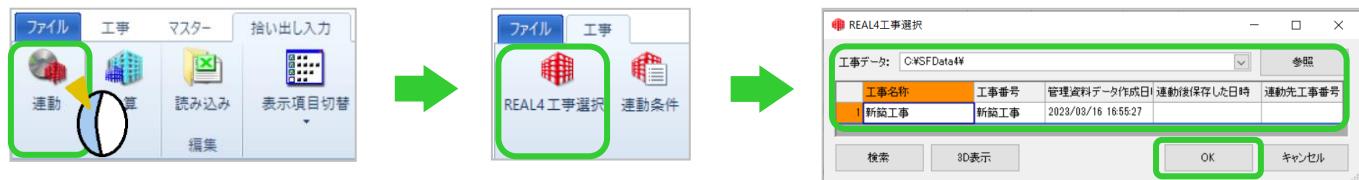
連動に関する注意事項が表示されますので、内容をご確認いただき、【連動データ作成】をクリックします。



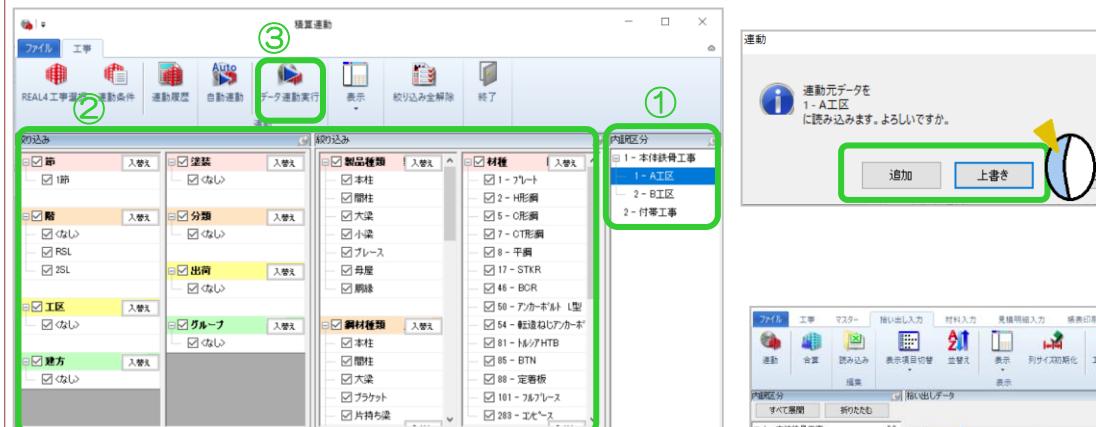
見積積算4の拾い出しリストに製品符号を連動したい場合は、REAL4にて【符号管理】、塗装（錆止め/メッキ）や工区情報を連動させたい場合は【工区・塗装】にて設定を行ってから連動データ作成してください。

REAL4での作業は以上になります。

見積積算4を起動後【工事管理】より連動データを保存する工事を選択し【マスター】 - 【内訳区分】を作成した上、【工事別マスター】へ保存します。【拾い出し入力】 - 【連動】をクリックし【REAL4 工事選択】より連動したい工事を選択します。



積算連動画面に連動元工事データに、先程選択した工事が表示されますので①内訳区分から連動先の区分を選択し、②絞込みにて連動したいデータのみ選択、最後に③【データ連動実行】をクリックします。



最初の読み込みであれば
【追加・上書き】は同様
の意味となりますので、
どちらかをクリックし
読み込みます。

同様に他の内訳にも【データ連動】を行ってください。

積算連動画面を閉じると、それぞれの内訳に
拾い出しデータが連動されています。

内訳区分	拾い出しデータ	拾い出しだた						
		No.	部位	材種	サイズ	フランジ材質	ワイヤ材質	
1 - A工区	1 - A工区	1 - 本体鉄骨工事	1 - 本柱	48 - BCR	300x300x19	45 - BCR295	45 - BCR295	158
2 - B工区	2 - B工区	2 - 仕口	48 - BCR	300x300x19	45 - BCR295	45 - BCR295	158	158
3 - C工区	3 - C工区	3 - 通しダイヤ	1 - フレート	22		21 - SN490C	21 - SN490C	172.7
4 - D工区	4 - D工区	4 - アンカーベース	1 - フレート	28		21 - SN490C	21 - SN490C	219.8
5 - E工区	5 - E工区	5 - ベースプレート	1 - フレート	9		1 - SS400	1 - SS400	78.65
6 - F工区	6 - F工区	6 - 基礎地盤	8 - 平鋼	9x25		1 - SS400	1 - SS400	1.77
7 - G工区	7 - G工区	7 - 定着板	88 - 定着板	12.6x8.6x(M20)		1 - SS400	1 - SS400	0.983
8 - H工区	8 - H工区	8 - アンカーボルト	54 - 鋼板ねじアカボルト	M20		88 - ABR490	88 - ABR490	2.05
9 - I工区	9 - I工区	9 - ブラケット	2 - H形鋼	350x175x7x11		1 - SS400	1 - SS400	49.4
10 - J工区	10 - J工区	10 - 裏当て金	8 - 平鋼	9x25		1 - SS400	1 - SS400	1.77
11 - K工区	11 - K工区	11 - 裏当て	1 - フレート	12		1 - SS400	1 - SS400	94.2
12 - L工区	12 - L工区	12 - ブラケット	2 - H形鋼	400x200x8x13		1 - SS400	1 - SS400	65.4
13 - M工区	13 - M工区	13 - 裏当て	8 - 平鋼	9x25		1 - SS400	1 - SS400	1.77
14 - N工区	14 - N工区	14 - エンドタブ	1 - フレート	16		1 - SS400	1 - SS400	125.6
15 - O工区	15 - O工区	15 - 本柱	48 - BCR	300x300x19		45 - BCR295	45 - BCR295	158

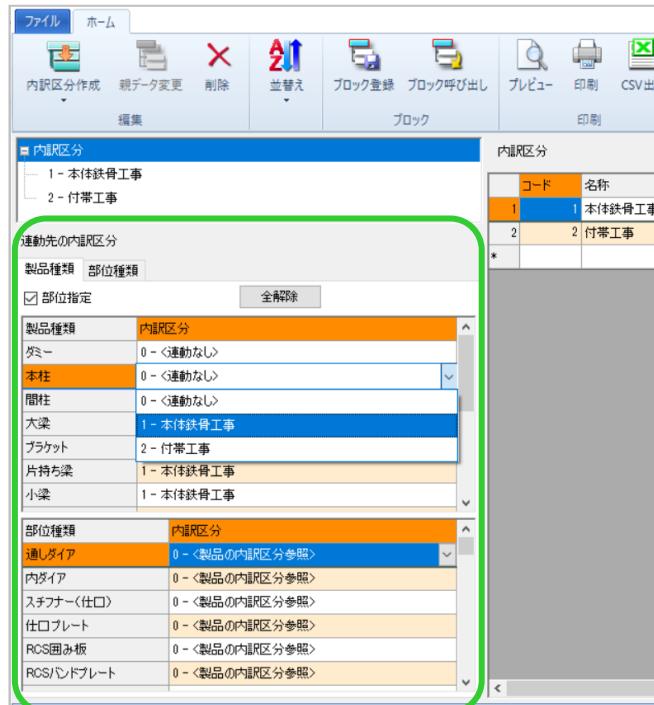
②REAL4のデータを見積積算4へ連動したい！(自動連動)

製品種類毎に連動先を自動で割り当て可能になります。

REAL4にて連動処理が必要です。

REAL4での設定方法は【①REAL4 のデータを見積積算4へ連動したい！(データ連動)】をご参照ください。

見積積算4を起動し【工事管理】より工事を選択した後、【内訳区分マスター】にて内訳区分を作成します。



連動先の内訳区分では 製品毎、もしくは各部位毎に連動先を選択することが可能です。

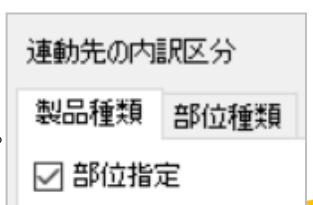


製品種類タブにて設定を行うと、製品毎に連動先の内訳区分設定が可能になります。更に部位指定をすることによって、製品に溶接されるものでも詳細に内訳区分を設定する事ができます。

部位種類タブにて設定を行うと、製品として纏めず、単品毎で内訳設定を行うことが可能です。

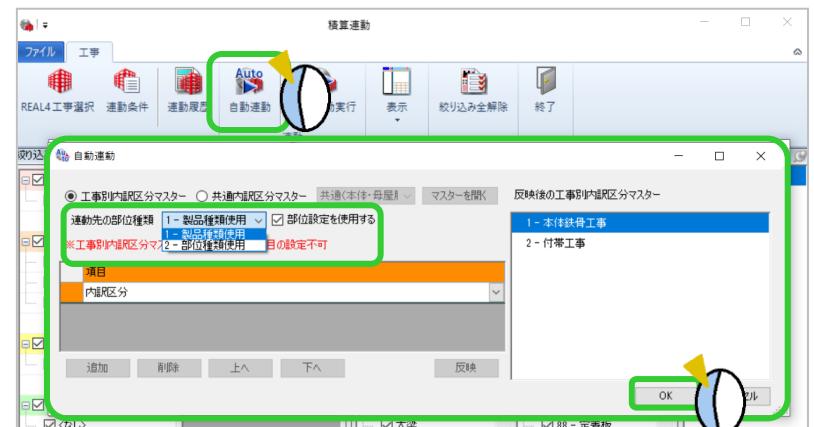
製品種類と部位種類は各自設定できます。

連動時にどちらかを選択します。



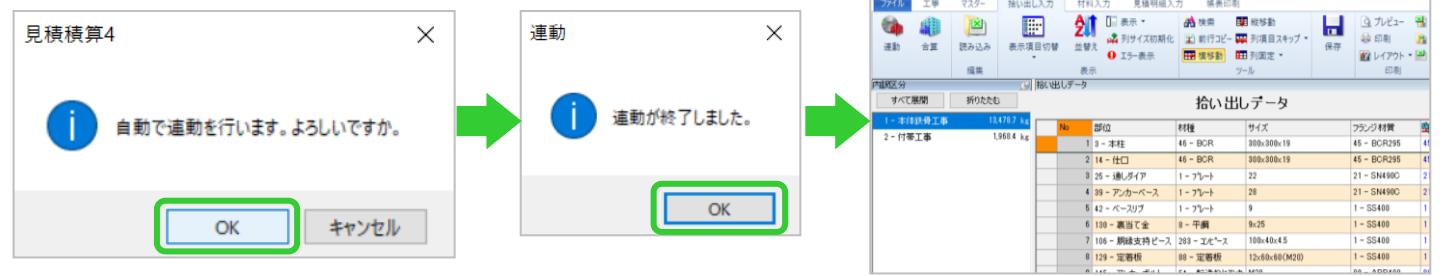
【拾い出し入力】 - 【連動】をクリックすると積算連動画面が開きます。

【自動連動】をクリックすると自動連動画面が表示されます。



自動連動画面にて、事前に設定していた内訳の製品種類か部位種類を使用するのか、もしくは製品種類を使用し、部位設定も使用するのかを選択した後【OK】にて確定します。

自動連動するかの確認画面が表示されますので、【OK】をクリックし、連動を終了します。



REAL4のデータを最適取合システムへ連動したい！①

REAL4で連動データを作成することで連動が可能になります。

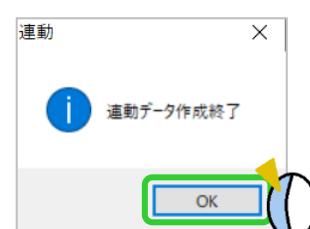
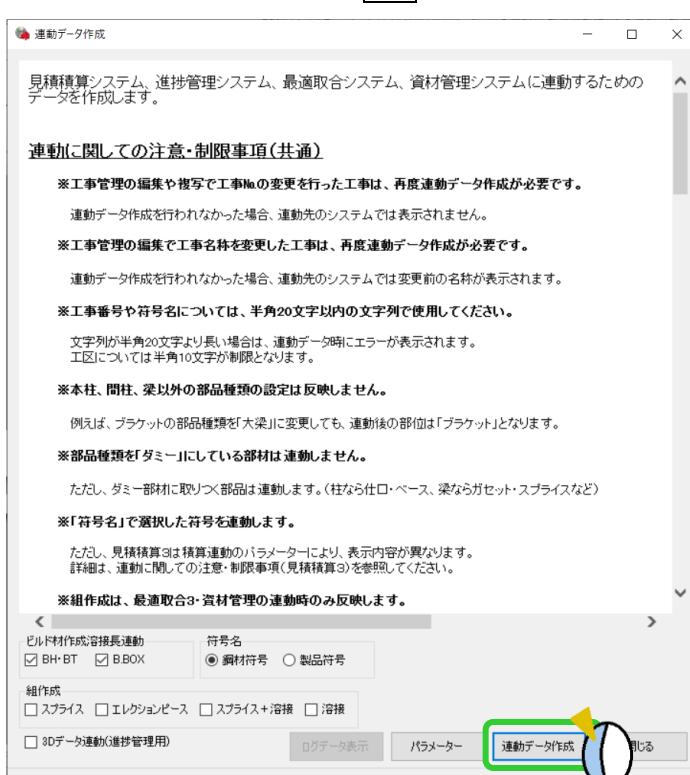
REAL4で【出力】 - 【連動】をクリックします。



連動データ作成画面が表示され、連動に関する注意事項が表示されます。

内容をご確認いただき、【連動データ作成】をクリックします。

連動データ作成が終了したら【OK】をクリックします。REAL4での作業は以上になります。



【組作成】のスプライス等にチェックを入れ連動データ作成を行うと、溶接やスプライスで取合う部材を同じ定尺材から取合うことができます。

組作成
 スプライス エレクションピース スライス+溶接 溶接

スライス+溶接はフランジ溶接継手、**溶接**は板継手になります。

部材のID番号が違う部材は組作成しません。

※最適取合2は未対応です。

※事前に最適取合3【パラメーター】 - 【2.詳細】

- 5) 組を【O-有り】に変更してください。

最適取合3を起動します。

【連動】 - 【REAL4】をクリックします。

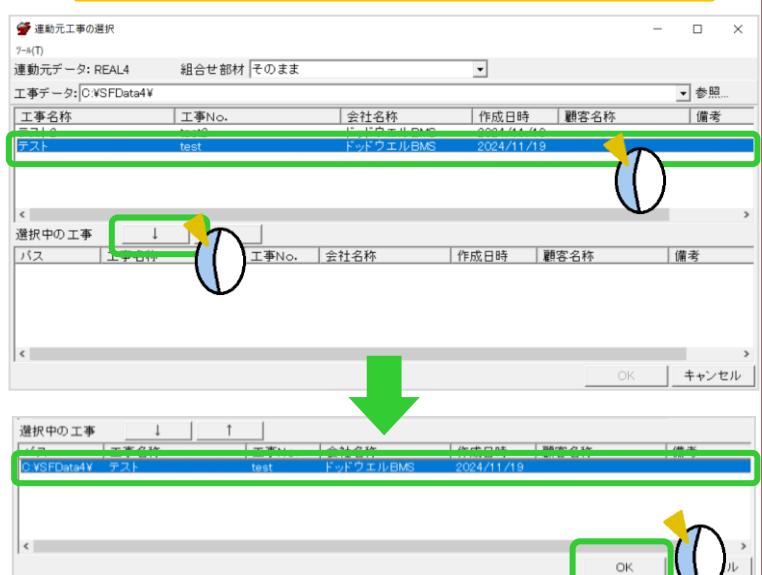


連動元工事の選択画面が表示されます。

連動する工事データを選択し、[↓]をクリックします。

選択中の工事に選択した工事が移動するため、

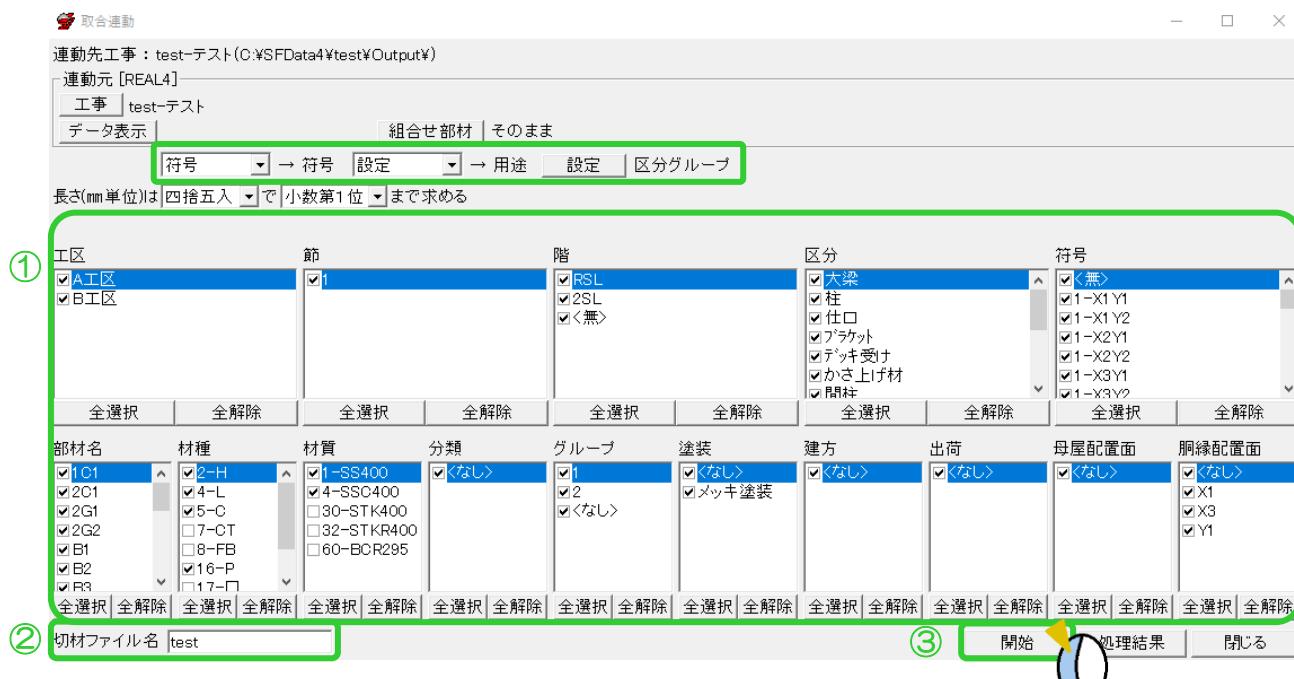
【OK】をクリックします。



REAL4のデータを最適取合システムへ連動したい！②

REAL4で連動データを作成することで連動が可能になります。

取合連動画面が表示されます。



- ①工区や節、区分や材種などで連動したいデータのみチェックを入れます。
- ②【切材ファイル名】を入力します。
- ③開始をクリックすると連動処理確認画面が表示されるので、[はい(Y)]をクリックします。

処理が終わると【入力】 - 【切材入力】に REAL4 から連動したデータが反映されます。



切材ファイルは、各工事データフォルダの **input-Ch3Data** に 【切材ファイル名.ChB】 と保存されます。
例) 切材ファイル名 : test →  **test.ChB**

取合連動時に【切材入力】の符号欄、用途欄に連動する項目を選択できます。
【設定】→用途とした場合、右隣の設定より複数組み合わせた名称を連動することができます。

No.	取合	取合履歴名	組	符号	用途	材種	材種名	部材	材質	材質名	長さ(mm)	本数	残数	重量(kg)	左端(mm)	右端(mm)
1	未			2B3-1	小梁1	2	H	H-150x75x5x7	1	SS400	955.0	1	1	13.37	0.0	0.0
2	未			2B3-2	小梁1	2	H	H-150x75x5x7	1	SS400	955.0	1	1	13.37	0.0	0.0
3	未			2B3-3	小梁1	2	H	H-150x75x5x7	1	SS400	955.0	1	1	13.37	0.0	0.0

CADデータ(F5/JWW/DXF/DWG)を別の形式に変更したい！

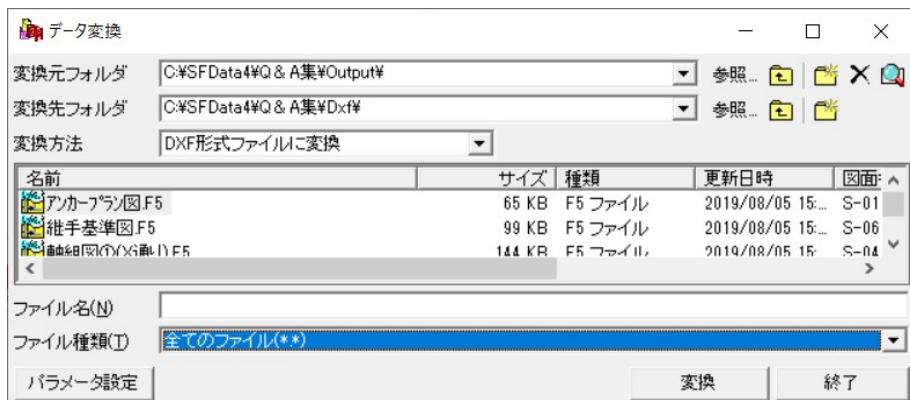
データ変換機能を使います。

【出力】 - 【ファイル変換】をクリックします。



変換元フォルダ・変換先フォルダ・変換方法を選択します。

違うフォルダを表示したい場合は【参照】をクリックし、選択します。



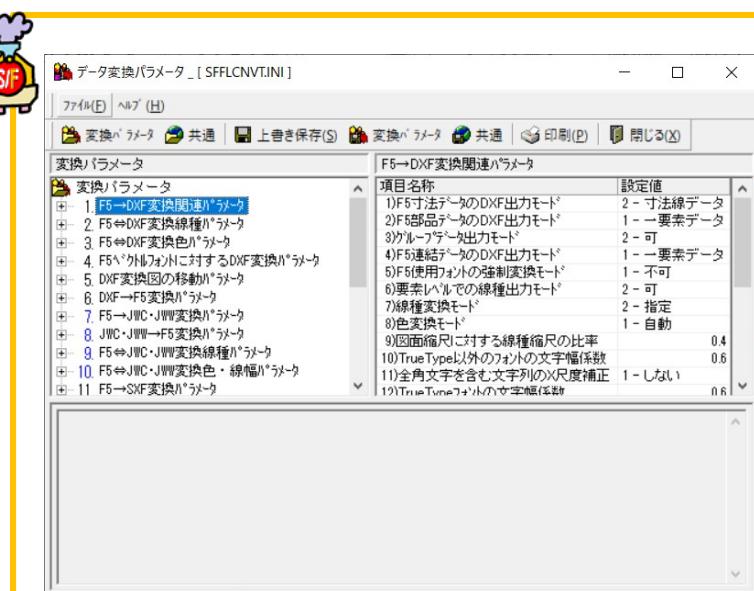
例として次のように設定します

- ・変換元フォルダ：工事データの Output
- ・変換先フォルダ：工事データの Dxf
- ・変換方法：Dxf 形式ファイルに変換
- ・ファイル種類：すべてのファイル(*,*)

変換したい図面ファイルを選択し、【変換】をクリックします。

変換したい図面ファイルが複数ある場合は、**Ctrl**キーもしくは**Shift**キーを押しながら選択します。

変換先フォルダに指定した場所を確認すると、変換されたファイルが確認できます。



データ変換画面の【パラメータ設定】をクリックすると、変換時の設定ができます。

図面出力時に F5 や F6 形式以外のファイルで出力する場合、データ変換パラメータ設定により変換結果が変動します。

JWW へ変換する場合は、JWW ソフトにレイヤー数の制限（16 個）があるため、変換前にレイヤー数の調整をしておく必要があります。REAL4 の【ファイル】 - 【レイヤー設定】から設定できます。

REAL4で通常使うCADをArris4に設定したい！

Arris4内でファイルの関連付け設定を変更できます。

デスクトップ上にある【Arris4】のアイコンの上で右クリックし、
【管理者として実行】をクリックして Arris4 を開きます。

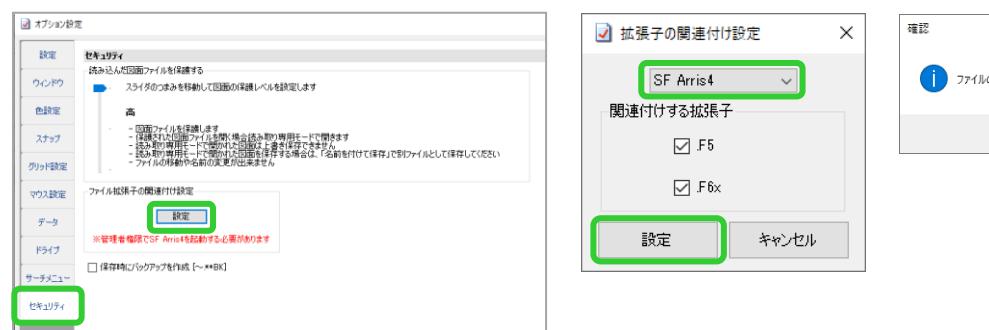
【ファイル】 - 【オプション設定】をクリックします。

【セキュリティ】 - ファイル拡張子の関連付け設定の【設定】を
クリックし、

『SF Arris4』が選択された状態で、関連付けする拡張子として

- F5 (Arris3 用標準ファイル形式)
- F6x (Arris4 用標準ファイル形式)

にチェックが入った状態で 【設定】をクリックすると、Arris4 へ関連付けられます。



※Arris3へ戻したい場合は左記関連付けにて
『SF Arris3』を選択し、
【設定】をクリックしてください。

SF システムメニューや REAL4 内の出力タブにあるアイコンや継手入力画面内、

胴縁割付断面内などから起動できる Arris が全て Arris3 から Arris4 へ変更されます。

【SF システムメニュー】



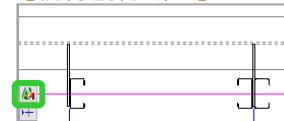
【出力】タブ



【継手】 - 【入力】



【胴縁割付断面】



レイアウト設定内の図面編集でも Arris4 の機能を使用したい場合は、以下の設定も併せて行って下さい。

REAL4 起動後

【ファイル】 - 【REAL4 のオプション】 -

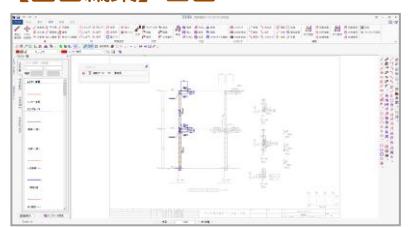
【作図設定】 - 図面編集設定の

『Arris4 で図面編集を起動』に☑を入れると
Arris4 の機能が使用できるようになります。

【REAL4 のオプション】



【図面編集】画面



? S/F com-passのアカウント登録方法が知りたい！

アプリをダウンロードしてください。



ストアや QR コードからスマホやタブレットに S/F com-pass のアプリをダウンロードします。

『Google Play』



『Apple Store』



S/F com-pass アプリを起動し、スタート画面の新規登録をクリックします。



アカウント登録に使用する
メールアドレスを
送信します。



送られてきた URL に
アクセスし、パスワード
を設定します。



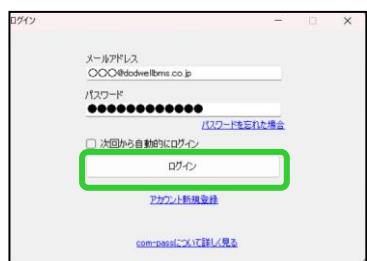
アカウント登録完了です。

REAL4 を開きます。

【出力】—【com-pass ファイルアップロード】をクリック。



別画面が開きますので、アプリのログイン時に設定した
メールアドレスとパスワードを入力しログインをクリック
します。



◆新規アカウント登録は REAL4 【com-pass ファイルアップロード】からも行えます。

その際のメールアドレスは、メール不達などのトラブルがある為、携帯キャリアメールの使用はお控えください。
フリーメールか PC メールの使用をお勧めします。

◆パスワードを忘れると再設定する必要があります。

① S/F com-passのアップロード方法が知りたい！

REAL4からアップロードできます。

REAL4を開き、スマホやタブレットにアップロードしたい工事を開きます。

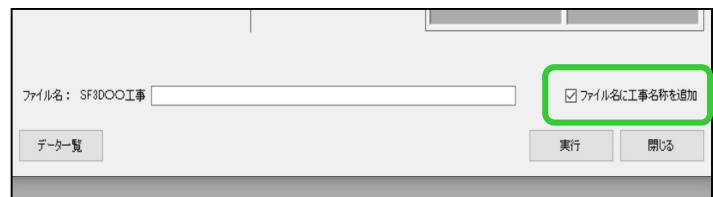
【出力】—【com-passファイルアップロード】をクリックします。



◆工事をアップロードする際、入力データを保存する必要があります。

◆【ファイル名に工事名称を追加】に□を入れると、スマホやタブレット側でどの工事データが送られたかが確認できます。

出力したい項目に□を入れ、実行をクリックします。
この時、左上の【ユーザーID】がスマホやタブレットのアドレスになっている事を確認してください。



◆出力できる工事は1工事のみになります。

別工事を出力したい場合は、REAL4の【com-passファイルアップロード】内の【データ一覧】より出力済のデータを削除し、その都度工事をアップロードして下さい。

◆1つのアドレスを複数人で使用する場合、1人がログインしている間は他のスマホやタブレットからはログインできません。

① S/F com-passの使い方が知りたい！

スマホやタブレットから詳細情報が確認できます。

S/F com-pass では

【視点切替】、【照会】、【検索】、【単品表示】【全体表示】

【設定】（回転や拡大縮小の速さ、色設定、投影方法、表示モード切替）

が確認できます。



【視点切替】

それぞれの視点から確認する事ができます。



【照会】

「製品符号」や「長さ」等、「製品単位」と「鋼材単位」で詳細情報が確認できます。

「製品」

プロパティ	
部品種類	
符号名	1C1-3
長さ(mm)	6326.31
重量(kg)	887.213
サイズ	
材質	
階高	GL
工区	○工区
建方	なし
塗装	なし
分類	なし

「鋼材」

プロパティ	
部品種類	本柱
符号名	2C1-2
長さ(mm)	2827.4
重量(kg)	226.475
サイズ	□-300x300x9
材質	BCR295
階高	2SL
工区	○工区
建方	なし
塗装	なし
分類	なし



【検索】

「キーボード入力」「カメラ」「タッチペン」で検索する事ができます。

製品符号を入力してください	<input type="button" value=""/>
---------------	---------------------------------



「カメラ」では撮影した文字から検索する事ができます。



「タッチペン」では画面に直接指で書いた文字で検索する事ができます。

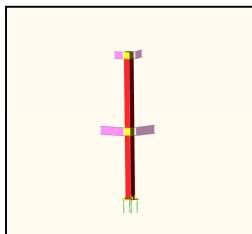


「虫メガネ」ではキーボード入力で「製品符号」と「鋼材符号」で検索ができます。



【製品表示】

「製品単位」で表示する事ができます。



◆ 製品表示中でも鋼材単位での【照会】はできます。

◆ 再度【製品表示】をタップすると製品表示が解除され、全体表示に戻ります。